

バンコク便り No.6

師走になり、すっかり吹き付ける風が冷たくなって来ました。と言いたいところですが、やっぱりバンコクは12月でも暑いです。街中にクリスマスの装飾が施されようと、寒い日本で過ごしている期間が長いので、やっぱり「冬=寒い」という気候がじっくり来ます。今月いっぱいにて現在の国連人口基金との契約も終わりますので、バンコクの暑い（約30℃）冬から日本の寒い（10℃前後）冬へ移動するのですが、身体がついて行けるのでしょうか？



1. 海外で働くということ

昨今景気が上向かず、税収も伸びない中では海外の援助に多くの予算を割くことは難しくなっています。国際協力という業種で働いていると様々なJICA関係の方々と接する機会があります。私自身が国際協力の道に足を踏み入れたのが青年海外協力隊員。派遣国は今働いているタイでなく南西アジアの小国“ブータン”。しかし多くの協力隊員が避けて通れない苦労は体験してきているので、相談には乗りたいと思っています。しかし、なかなか協力隊員との接点が無く、連携どころか、知り合うことすらままなりません。

バンコクへ赴任してから1年以上掛かって在タイ協力隊員と出来た縁。話を聞いてみると、やっぱり自分自身が協力隊員として活動した当時と同じ様な苦労をしています。当時、私は専門家の方に相談に乗っていただいたり、アドバイスを受けたりして助けられてきました。それが結果的にはスムーズな活動へと向かう大きな助けになりました。

ブータンのような在留邦人の少ない国は自然とJICA関係者に関わらず、国際協力の分野に携わっている方々が協力し合っています。しかし、ここタイでは中々それが上手くかみ合っていないのを感じました。特に多くの協力隊員が任地で現地の方々に混ざって孤軍奮闘しています。

不思議な事ですが、国際協力の分野で働いている方々、持っている技術を他人に対して出し惜しみをしません。技術的な事で困っていれば、持っている技術を惜しみなく提供します。恐らく“困っている時はお互い様”というのが、潜在的にあるのかもしれませんが。つまり日本人同士が協力し合う土壌はあるのです。目に見える形の無駄な予算を省くことも必要かもしれませんが、既にある人材、仕組みをより効果的に使う方がよっぽど効率的な税金の使い方に繋がる気がしてなりません。

2. タイ国内青年海外協力隊の任地訪問

前号に引き続き、協力隊員の任地へお邪魔させていただきました。頑張っている姿を見ると、大きなお節介かもしれませんが応援せずにはられません。

2.1. 平成 21 年度 2 次隊 友國ゆかり隊員 職種：獣医

飛行機でバンコクから北東へ約 500km。最寄りの空港がある町まで車で一時間ほど。そこから車で一時間前後の所に友國隊員の任地はあります。タイの国土は多くが平野なので、起伏のある景色がもの凄く新鮮です。低い土地では畑や田んぼがあり、少し高いであろう土地では酪農をしています。事前にお邪魔したい旨を話すと“活動らしい活動が出来ていないですから、見に来て面白くないですよ”と友國隊員はぼやきます。個人的な意見かもしれませんが、協力隊員は苦悩するのも活動。上手くいくのも活動と言えると思うので、任地へお邪魔すれば何かしらあると思い訪問をさせていただきました。



緑多き任地周辺

協力隊員には認められていない“自動車の運転”。協力隊員と立場の違う私はレンタカーで任地へ向かいます。事前に“普段、やりたいけれど出来ない事をやってみる？”と話しておいたので、普段は街から遠すぎて（片道車で 40 分程）訪問する事の叶わない酪農農家の現場へ友國隊員と共に お邪魔する事にしました。



道路の状態がひどい農家周辺

そこで見る友國隊員はもの凄く生き生きしています。配属先の事務所に居るときは事前に聞いていた通りに愚痴ばかりを散々言っていました。それが嘘のように日常的に苦悩している事を全く想像できない程に生き生きと輝いた表情をしています。

協力隊員の置かれている環境は千差万別。すんなり思うようになる隊員もいれば、友國隊員のように日々悩む隊員もいます。活動を通して、目に出来る成果を求められていない協力隊員。成果が目に見えなくとも、友國隊員の内面には大きな成長がもたらされていると思います。

これまで過ごしてきた期間よりも、帰国までの期間を勘定した方が早いほどに友國隊員は帰国が迫ってきてしまいましたが、きっと何か小さな切っ掛けさえあれば、日々の苦悩から脱して、友國隊員の思うような協力隊員活動の日々が送れるのではないかと思います。その為にも周囲の協力隊員の応援、さらには JICA 関係者や、数多くいる協力隊員経験者の協力が欠かせないと思います。その為にも、まずは友國隊員自身が現状の行き詰まっている殻を破って、小さな一歩でもいいので踏み出して欲しいと願わずにいられません。



同僚と協力して採血中



採血した血を持ってポーズ。嬉しい？



ご協力下さった酪農家と一緒に

2.2. 平成 21 年度 3 次隊 奥村拓矢隊員 職種：PC インストラクター

私自身が協力隊員に参加する当時は存在しなかった職種です。私の頃は現在の PC インストラクターという職種もひっくるめて“コンピュータ技術”と呼んでいました。つまりコンピュータ関連の職種があまり細分化されていなかったのです。奥村隊員と同様、私も協力隊員時代はコンピュータを指導していました。その為、奥村隊員の教室での活動には大変興味を持っていました。しかし、残念なことに私が奥村隊員を訪ねた当日は“運動会 or 体育祭”の様な行事と重なってしまいました。街中から学校までを生徒達はパレードを行い、その後校庭にて開会式です。言葉で書くと簡単ですが、ここはタイ。日差しは強く、炎天下をパレードだけでもかなり体力が消耗されます。そして教育委員会の方々の訓辞もなかなか長い。生徒が倒れることを想定しているかのように、簡易ベットが用意されています。



学校周辺は商店が無い

開会式が終わってから、奥村隊員が寝起きをしている職員用宿舎を見学したり、教室などを案内してもらいました。その道すがら、度々生徒や先生達から声を奥村隊員は声を掛けられています。時に名前前で呼ばれたり、時に日本語で“センセー”と呼ばれます。そんな姿を見ていると私自身の協力隊員時代を思い出し羨ましくもなり、同時に“奥村隊員はタイ人から愛されているんだな”と感じます。



学校周辺は商店が無い

一見、楽しそうにしている奥村隊員でしたが、日用品を購入できる街までの道のりが炎天下、かつ交通手段は自転車という条件では厳しすぎるほどに離れていました。車ではたかだか 10～15 分の距離ですが、自転車では 1 時間近くの道のりになります。自ずと学校の敷地内に籠もることになり、学生達・教職員達との接点が増えているように感じます。

今回は奥村隊員の授業風景を前述の体育祭が理由で見学できませんでした。しかし、これだけ生徒達から愛されているなら、途中で様々な苦悩もあるかと思いますが、最終的には充実した協力隊活動であったと実感して任期を満了されるのではないかと思います。是非とも引き続き頑張ってください。



祝辞が長い開会式



同僚・生徒からの人気は絶大！



学校の敷地内にある宿舎

3. 最後に

一般的にタイという“そこそこ発展した国”という印象を多くの方が抱いていると思います。また、“何でタイみたいに発展している所へ協力隊員が行くの？”と疑問を持つ人もいます。しかし、それは首都バンコクに限った話で、ちょっと郊外へ行くとどのどかな風景が広がって

いたりします。殆どの協力隊員はそうした首都バンコクから離れた農村であったり、地方都市で活動しています。彼・彼女達は、日本から見るタイとは大きく違う印象をタイに持っていると思います。今回はタイでの任期が終わってしまってこれ以上在タイ協力隊員の活動をお知らせすることが出来ません。タイには協力隊員を経験した JICA 関係者が多くいます。そうした経験者は協力隊員に優しく手を差し伸べているはずですが、残念なことに両者の接点があまりにも少なすぎるのです。また JICA 関係者に限らず、国連にも協力隊員経験者が多くいます。それぞれの立場の垣根を取っ払うことは難しくとも、同じ国際協力という業界に携わっている同じ日本人なので、JICA 事務所が中心となり、“All Japan”として協力して欲しいと切に願います。

元連人口基金アジア・太平洋地域事務所
情報ネットワークオフィサー
瀬畑陽介